ROTARY CLUB of FUKUI

ニコニコ箱

ローターアクト式典、よろしくお願いします。

(福井ローターアクトクラブ 豊田和希様) 吉田会長の代理で開会の挨拶をさせていただいたので。予行 練習させていただきありがとうございました。 (上田祐広)

先日、地区諮問委員会・合同地区委員会に出席してきました。 (宮﨑茂和)

吉岡会員、卓話ありがとうございました。 (淡島智子) (小川博章) 吉岡会員、卓話ありがとうございます。

吉岡会員の卓話楽しみにしています。上田会長、清水幹事のエ レクトコンビのリハーサル例会が上手く運営出来て良かったで

(片岡正明) 吉岡さん、卓話ありがとうございます。 (竹内大介)

吉岡さん、卓話楽しみにしてました。 (西岡宏二郎) 卓話させていただきました。古めかしい写真なども使わせても らいました。 (吉岡正盛)

嘉屋次郎

【結婚記念日御祝】荻原昭人・長谷美左子

委員会報告



環境保全委員会 山岸 靖夫 委員長

2月1日にご案内しております「ドラゴ ンリバー交流会主催:足羽川清掃活動」が 3月17日(日)午前8時に実施されます。

前日は北陸新幹線開業となり、新幹線から見える足羽川を 皆さんで清掃し、美しくしたいと思います。会員様だけでな く、ご家族や従業員様お誘いあわせの上、ぜひご協力をお願 いいたします。

ロータリー財団増進特別寄付金

今日はコートが不要なくらいの暖かさですね。 (宮﨑茂和) 吉岡さん、卓話ありがとうございました。 (上田祐広) (出雲路康照) わずかでも世界の役にたちますように。 感謝です。これからもよろしくお願いします。 (大森正男) 久しぶりの財団寄付です。 (片山 元) 世界に希望を生み出すために財団への寄付をお願いいたしま す。大森さん、マルチプルポールハリスフェローおめでとうござ います。 (野村直之)

各 君

(林 正岳)

米山奨学特別寄付金

谷﨑由美子

米山ランチでしたが、谷崎さんと同席で。

2/8 に 2024-25 年度の理事役員予定者会議を行いました。い よいよ次年度始動です。 (上田祐広) カレーライス美味しかったです。 (淡島智子) 吉岡さん、卓話ありがとうございました。 (竹生知子) 卓話の吉岡会員と同じテーブルにて。卓話ありがとうございま

した。 市橋信孝・小川博章

中人人人以江

各 君

(渡辺崇嗣)

奇刊並の状況			
	2月15日分	累計	目標
二コ二コ箱	26,000円	1,677,000円	3,000,000円
ロータリー財団	17,000円	2,459,500円	4,095,900円
米山奨学金	12,000円	1,355,650円	2,540,000円

ありがとうございました。

ビジター受付

■ 3月 5日(火) 福井フェニックス

ザ・グランユアーズフクイ1階 カフェテリアテリア前 17:00より

■ 3月15日(金) 三国 ■ 3月29日(金) 三国 三国オーシャンリゾート&ホテル フロント 12:00~12:30

三国オーシャンリゾート&ホテル フロント 12:00~12:30

炉辺会談 テーマ「地震への備え」

【開催日時】 2024年2月9日(金) 18:30~

【開催場所】 ホテルリバージュアケボノ オージュ 【参 加 者】(座長)伊井 彌州雄 (世話役)白江 文夫、橋本 泰久、清水 嗣能、滝本 光男、塚本 明 計6名

- ☆ 日本は地震国家であり、備えとして地震保険に加入することは大事。世界の保険は地震災害は免責がスタンダード。
- ☆ 建築物の耐震性能はどんどん良くなっているので最新の耐震性能に準拠することで壁のヒビ等の軽微な損害に抑えること ができる。
- ☆ 発災時はEVやボイラー等の設備が停止した。鍵の開け方一つにしてもコツが必要だったり、有事の際に対応する知恵の 蓄積が大切。
- ☆ 役所からの要請があり、それに応えるため奔走したが、社業が有事の際に頼りにされることを実感できたし、誇りを共有 できた。それらをエンゲージメント向上に繋げることが今後の業務に役立つ。
- ☆ 発電機、電源車、備蓄品等想定していたものでもあらためてチェックすると不足があったし、連休中の災害を想定して準備、 確保しなければならない。
- ☆ 広域での同業他社との業務連携をしておくことで、他社工場の一時使用等で業務を止めない備えをしている。
- ☆ 災害がある度に備えの必要性を感じるが準備できていないのでまず実行する。
- ☆ 災害時に業務を遂行する人の確保をどうするかを検討しておく。
- ☆ 災害時だからこそ新聞(情報)の提供の必要性を感じたし使命感、誇りを感じた。
- ☆ 備蓄品のローリングストックを実施。
- ☆ 災害を風化させないように機会毎に様々な備えや経験を共有する。
- ☆ 様々な災害時の商品、システムを定期的に意識的に使用、訓練し、いざという時に使える ものにしておく。



グラブ会報会員会 会員を「小野田 兒 副会員長「利田 長隆 委員:竹生 知子・佐竹 新・柳町 剛弘・竹澤 文孝・専田 武志・吉岡 正盛 ソングリーダー♪ :木村 憲一 サブリーダー♪ :北島 恬・野尻 章博・竹生 知子・山本 晃司・辻橋 清和・西岡宏二郎・柳町 剛弘・澤田 悟恵 ホームページ http://www.fukui-rotary.com/ E-mail info@fukui-rotary.com 創立 1950年(昭和25年)10月15日 RI承認 1950年(昭和25年)12月4日(承認 № 7647)

現在会員数

ROTARY CLUB of FUKUI



福井ロータリークラブ会報

会員絆の再構築を

R.I. District 2650 2023-2024 Weekly Bulletin 2024年2月29日 第2620号 (創刊2776号)

輝きのある希望を生み出そう!!!

《 2023-2024年度 R.I. テーマ 》

世界に希望を生み出そう

ゴードン R.マッキナリー

本日の例会

R.I.会長 R.I.第2650地区ガバナー

中野 博美

2月は「平和構築と紛争予防月間」です。

未来へつなぐロータリーと共に人と人との関わりは平和構築の原点。

監 事 役員補佐 会長 吉田 清二 クラブ奉仕 片岡 正明 監事 藤井 健夫 副幹事 副会長 上田 祐広 職業奉仕 斎藤 英夫 監事 山内鴻之祐 副会計 松田 将裕 奥村 隆司 パストガバナー 直前会長 荻原 昭人 社会奉仕 滝本 光男 副会計 宮﨑 茂和 副会場監督 鷲田 泰紀 幹事 角谷 恒彦 国際奉仕 堀内 康代 会計 初瀬川達郎 青少年奉仕 萬谷 光司 ガバナーノミニー 副会場監督 中山 浩成 **会提監督** 岩崎 新 ロータリー財団 野村 直之 平野洋一

クラブテーマ:RC活動を復帰し更に発展すべく 地区スローガン:ロータリークラブに活力と

今後の予定 2024年2月29日 第3571回

12 時 30 分 開会点鐘

会長挨拶

退会挨拶 / 滝本 光男会員

委員会報告・幹事報告・その他

クラブフォーラム (委員会卓話)/

青少年奉什委員会 寺本 光宏 青少年奉什委員長

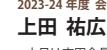
13 時 30 分 閉会点鐘



- 3月7日(木) 栄誉行事/米山奨学金授与/
- ゲスト卓話/理事会 3月14日(木)
- 福井ローターアクトクラブと 合同例会(夜間)
- 3月17日(日)
 - ドラゴンリバー交流会主催 (足羽川清掃活動)
- 3月21日(木) 地区RLI 委員会卓話
 - (安居 継彦地区RLI委員)
- 3月28日(木) 花見例会(夜間)

会場:開花亭

会長挨拶



2023-24 年度 会長エレクト

本日は吉田会長・角谷幹事がお休みなので、私と清水副幹事のフレッシュな次年度コンビが例会を進行さ せていただきます。不慣れですが、よろしくお願いいたします。

今月は「平和構築と紛争予防月間」です。残念ながらウクライナと中東での戦禍は収まらず、心を痛める日々 が続いています。また、2/23 は国際ロータリーの創立記念日で、来週は「世界理解と平和週間」となってい ます。地域社会と世界中の平和について考える機会としたいものです。

ところで私は建設業を生業としているので、能登半島地震について、特に輪島市の中心市街地で横倒しになった地上7階建て、 |鉄筋コンクリート造のビルについてお話ししようと思います。(以下は日経アーキテクチュアの記事を参考に記します)

倒壊したビルの地上に浮き上がってあらわになった基礎の裏面には、杭が引き抜けた痕跡が認められています。1978年(昭 和53年)の宮城県沖地震において、大きな被害が出て、その教訓から1981年(昭和56年)に耐震設計法が抜本的に見直さ れ従来の耐震設計基準が大幅に改正されました。輪島市の倒壊したビルは 1972 年に建設されたそうなので、以前の基準の建 物だった、ということになります。新耐震基準に基づいて建てられた建築物であっても、今回と同じような現象は起こりうる と警鐘を鳴らしている専門家もいます。今後、新しく建てられる建物は、基礎構造についても地震に対する強度や、土地の液 状化の可能性を厳格に判定する必要があるとのことです。

ちなみに、最近小耳にはさんだのですが、金沢のとある大学の志願者数が減っているそうです。震源に近い大学への進学を 控える県外受験生が増えてきたんでしょうね。こんなところにもマイナスの影響が出るんだなぁと大変驚きました。北陸新幹 線金沢 - 敦賀間開業を間近に控えたタイミングで起こった今回の震災が、北陸地方の盛り上がりに水を差さねばいいなぁと危 惧してしまいますが、こんな時こそ被害の少なかった福井県が、石川県や富山県の分も地元経済を盛り上げるべく頑張らない といけないなぁと思います。

今日のお食事は米山ランチで、久しぶりのカレーです。お代わり自由だそうです。例会を美味しい食事と共にお楽しみくだ さい。

次回の例会

2024年2月29日(木)

■ 会場:ザ・グランユアーズフクイ

■ 開会点鐘 ■ 閉会点鐘: 12時30分 13時30分

■ クラブフォーラム (委員会卓話)/ 寺本 光宏青少年奉仕委員長

ROTARY CLUB of FUKUI

2024年2月15日 第 3570 回

	● 現在会員	132名
出席	● 出席者	67名
保	● 欠席者	54名
告	● 出席免除者欠席	11名
	● 今回例会出席率	55.4%

1月25日 ● メークアップ 36名

正 ● 欠席者 29名 | 出 | ● 修正出席率 80.0%

●メークアップ 村中洋祐、宮﨑茂和、野村直之、清川 卓二、上田祐広、須賀原和広、淡島智子、小川博章、長谷川 智洋、中山浩成、齊藤英夫(1/17 地区職業奉仕講演会)、宮崎 茂和(2/10 2023-24年度 第3回諮問委員会)、山内鴻之祐(2/16 福井あじさいRC)、宮﨑茂和、渡邉義信、村中洋祐、寺本光 宏、北島 恬(2/10 地区 2023-24年度 第2回 合同地区委員会

)、2/9 炉辺会談 第3班 6名、2/22 炉辺会談 第1班 10名、第6班 11名、第7班 12名 各君

例会報告

ロータリー財団表彰

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

第4回 大森正男会員 第3回 城戸 利枝会員



副 幹 事 清水 盛伸



幹事報告

1. 能登半島地震災害支援の義捐箱を回しま すのでご寄付をお願いいたします。 2. 次回の例会は 2 月 29 日となります。次 週2月22日は休会ですのでお間違えの無 いようにお願いいたします。

会員卓話

吉岡 正盛 会員

演 題「吉岡 幸四郎~吉岡幸株式会社創業者」

親睦・会報委員会の吉岡です。本日は貴重な卓話の時間をいただきましてこころより感謝申し上げます。 今年は1月1日能登半島地震が起き2日には羽田空港における衝突事故が起きました。

そこで、福井地震について書かれた次の文章をご紹介します。

天災は忘れたころにやって来ると言うが、戦時中米軍の爆撃でその傷も未だ癒えやらぬ福井市に、マグニチュード 7.3 の大 地震が襲った。昭和23年6月28日のことである。死者3,900人を数え、福井一のビルディング大和百貨店が半倒壊して話題 を呼んだ。先ずこの地で1番ごひいきを頂いている吉岡幸商店に向かった「おお丸金さんよく来たなあ」大地震で驚いた話、 あわただしい話の中、突然ご主人の目が輝く「いいとこ来た。建築ジャッキ注文するぞ、トラック一車」私「エーツ」耳を疑 う大きな注文に頭に血が登った。あわてて聞き直した。「そうだ!トラック一車だ、間に合うか」小柄だが肝っ玉の太い人である。 注文を受けた私のほうが足が震えた。夢遊病のように北陸の出張を中止して豊橋へ引き返した。 ~中略~ 1ヶ月後西尾市 よりトラック直行便1台仕立て福井へ向かった。私は何故か、桁は違うが、紀の国屋文左衛門の紀州みかん船を連想していた。 福井大地震、被災者はまことに難儀、辛苦は計り知れないが 46 年経過した今風に表現すれば、北陸地方、又物資ルートであ る名古屋、大阪圏には戦後の沈滞時に大きな経済効果をもたらしたものであった。或る人が困って或る人が得をする人間社会 の因果というものであろうか。~ 後略 ~ (竹内正人氏自分史平成6年10月記 仕入れ先さま随想録より)

今の能登半島地震のような悲壮感は漂わない、明るい文体になっているが、当時の福井は現在の能登半島の街並み同様、す べてが破壊尽くされて、まったく何から始めてよいのか、恐らく戦後復興の真っただ中での地震であったことから、今以上に 困難極まっていたものだと思う。

自己紹介生まれは昭和 35 年 10 月、還暦を過ぎ今年 6 4 歳になります。尾上幼稚園、宝永小学校、進明中学校、高志高校、 名古屋工業大学(軟式テニス、ロードバイク、バンドなど)、大阪の日本伝導精機株式会社に3年間勤務、昭和61年5月に吉 岡幸株式会社に入社。昭和63年11月13日に「起多代」と結婚、平成元年9月に息子「正貴」を授かる。

趣味は、のこぎり演奏、2008 年から始めている社長ブログ、うまくならないゴルフ、いまだに 100 前後をうろついている。 家族3人でゴルフをする姿はよく見かけられております。

本日は吉岡幸株式会社の創業者であり、私の祖父である吉岡幸四郎についてお話をさせていただきます。

この写真は実は福井ロータリーのクリスマス例会の写真。 私のおじいさんが福井ロータリークラブに在籍していたころ、 私が小学校3~4年のころ、おそらく1970年前後の写真。 元はといえば、ロータリー一家。 幸四郎は明治 33 年 (1900 年) 2月6日に福井市で生まれ。幸四郎の父親、幸三郎は幸四郎 が 28 歳の時に他界してしまったこともあり、最も大切なこと は健康であると考えていた。若い時は、短距離走、寒中水泳 などをして足腰を鍛えていたようだ。寒中水泳は当時多くの 方が知る名物。ラジオ体操は毎朝欠かさずに続け、私が子供





のころは、早朝に足羽山へよく連れて行ってもらった。ビアジョッキーに生卵を 10 個ほど入れて一気飲みをしたが、健康に 良いとは思えない。

ROTARY CLUB of FUKUI

さて、生まれた1900年でろの時代背景、ちょうどフランスのパリで、万国博覧会とオリンピックが同時開催されていた時代、 今では考えられないようなにぎやかさではなかったか。昨年、札幌の冬のオリンピックは残念ながら招致断念となった。この ころ日本では山形有朋内閣から第4次の伊藤博文内閣へと変わり、日露戦争が1904年に開戦されるなど不穏な時代だった。

さて、『吉岡幸四郎の父親である幸三郎』は幸四郎が28歳の時に亡くなっている。その時、自分は「 健康で長生きしようと誓ったと聞いている。おかげで88歳まで健康で天寿を全うした。私から見 て曽祖父である幸三郎の仕事は「ばんばという鳥のえさ」を田舎から仕入れて問屋へ売り、その利 益で生活をしていた。ばんばとは米として使えない稲のこと。幸四郎は父親と一緒にそのばんばと いうものを荷車に積んで5~6時間一緒に売り歩き足腰は鍛えられた。

福井高等小学校を卒業して14歳で仕事に就くことになる。幸四郎は江戸時代に活躍した彫刻師、 左甚五郎にあこがれ、彫刻師の見習いに出た。結局、不器用であるということであきらめる。次に 織物商社を夢見て呉服町の羽二重商「久保吉太郎商店」へ入社するが、どうも当時の派手なイメー ジに合わず半年でやめてしまった。そして大正3年、次に入ったのが、今の吉岡幸の原点である金 物商へ丁稚奉公する。先の羽二重商の近くにあった金物商の店先に英国製のラージというメーカの | 自転車があり、その自転車に乗りたい、という一心で、そのお店に飛び込み入社した。国産の自転



車の無い時代。今の時代だと高級外車。私も自転車に乗って四国一周など回っていたのはこの辺が似ているのだなと思う。い つの時代も何かあこがれによって人の心は動くもの。

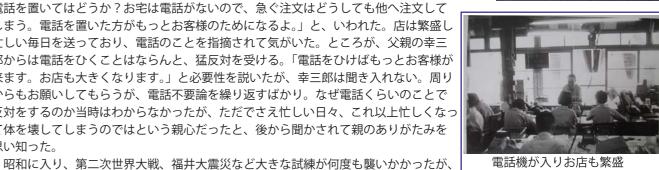
お店の主人は大変に厳しい方。住み込みで働いて、朝6時に起床し玄関の掃除から始まり、先輩の作業服など洗濯をしてか ら最後に朝食をとるという、なかなかの厳しさ。仕事はそれこそ自転車での配達や店番。夜は遅くまで釘やねじを入れる袋を 新聞紙で作った。また、秋から冬にかけてはこたつの網や餅を焼く網などを作るなどして、朝から晩まで一年中働いていた。 月に2度は夢にまで見た憧れの自転車で大野・勝山まで配達と集金にでかけた。舗装されていない山道を朝早くに出かけ夜遅 く帰ってくる、減速ギアなんて無い、鉄の重たい自転車で日帰りするなど、とても考えられない話である。休みは1月15日 の1日だけ。中学生ぐらいのまだ子供にはきつかっただろうと思う。当時はみなこんな感じで、泣き言をいう前に、明日のこ とを考えろと、先輩から怒鳴られた。しかし、この苦労が将来役に立った、と金物屋の店主には感謝しているのである。

こうして5年間、金物屋で商売のコツを勉強して、大正8年5月、19歳の時に独立を果 たした。19歳で5年間に丁稚奉公で蓄えた資金などあるはずもなく、さらには信用も、店舗 らしいものもなく、親戚の人に借金をして金物店を開業にこぎつけた。もちろん月末の返済 日には間に合うようにそれこそ寝る間も惜しんで仕事をしたという。それをしっかりと続け て「努力」と「誠心誠意」を商売の魂として得意先を増やすことに勤めた。

その結果、売り上げも伸びたが、店員は幸四郎を入れても3~4人、自動車の無い時代、 荷車や先ほど話した自転車で営業や配達をする、もちろん交代で午後6時ごろに夜食のおに ぎりを食べて、配達に出かけたようだ。当然のことながら寝てしまっている店もあり、そっ と荷物を降ろし、店に帰ってくると深夜1時2時ということもしょっちゅうあったらしい。 帰ってから伝票の整理などをして、寝るのは夜明けになってからということもたびたびあっ た。また、品物が間に合わないときに、約8時間かけて夜行列車に乗って、大阪の問屋さん に無理を言って急ぎのものを持ち帰ってくる。お客様さには非常に喜ばれた。 今も供給者責任として経営3原則に掲げている。

また、大正13年ごろ、商売が順調に成長していた時のこと、あるお客様から「そろそろ 電話を置いてはどうか?お宅は電話がないので、急ぐ注文はどうしても他へ注文して しまう。電話を置いた方がもっとお客様のためになるよ。」と、いわれた。店は繁盛し 忙しい毎日を送っており、電話のことを指摘されて気がいた。ところが、父親の幸三 郎からは電話をひくことはならんと、猛反対を受ける。「電話をひけばもっとお客様が 来ます。お店も大きくなります。」と必要性を説いたが、幸三郎は聞き入れない。周り からもお願いしてもらうが、電話不要論を繰り返すばかり。なぜ電話くらいのことで 反対をするのか当時はわからなかったが、ただでさえ忙しい日々、これ以上忙しくなっ て体を壊してしまうのではという親心だったと、後から聞かされて親のありがたみを

思い知った。



フェニックス精神で立ち直りながら店を大きくしていった。昭和44年に創業50周年を迎え現在の本社ビルを建て、私の父親 (幸一) に社長をゆずる。令和元年(2019年)の5月に創業100周年を迎え、今年で105年目となった。幸四郎が創業した時 には小さな金物屋であった商売も、今では、鋼材・機械工具・管材という3本柱の商材を北陸3県中心に建設業や製造業に販

売させていただいている。2004年に私が社長に就任してちょ うど 20年、当時の売り上げが 126 億円。2024年1月決算 はおよそ206億円で、社員数208人となった。幸四郎が名 付けた「吉岡幸」という名前のごとく、私は会社の基本理念 として「みんなが幸せになる!」ということを第一に、福井 の「まちづくり・ものづくりを応援する建設産業資材のト タルサプライヤー」として、これからも歩んでまいりたい。





幸一(二代目)